水産・海洋研究発表会、発表内容の概要

①トゲノコギリガザミの完全養殖に成功！！　～養殖用種苗の安定供給に向けて～

深層水科　主任研究員　清水一輝

トゲノコギリガザミは浜名湖の水産有用種で、販売単価が高いため、新たな養殖対象として大きな期待が寄せられています。養殖に使用する種苗を安定して供給できるように研究を進めた結果、人工的に育てたカニに産卵させて再び種苗を育てる完全養殖に成功しましたので、ご紹介します。

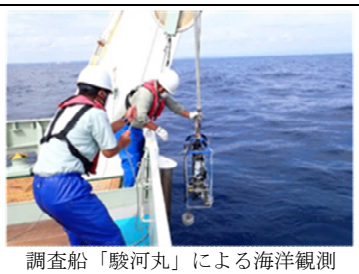


完全養殖で誕生した稚ガニ

②海の”今”を、もっと身近に～海洋観測とデータ活用～

資源海洋科　研究員　椛 亮介

水温は海洋環境の変化を把握する上で重要な指標です。当研究所では、調査船「駿河丸」による毎月の海洋観測に加え、定地水温の観測や水温観測ブイの設置を行っています。今回は、これらの海洋観測情報を提供する当研究所の新しい取組を紹介します。また、これらの観測情報の活用例として、黒潮大蛇行終息によって沿岸水温がどう変わったのか説明します。



調査船「駿河丸」による海洋観測

③衰退した藻場の代替海藻を探せ！

伊豆分場　研究科長　山田博一

伊豆地域では黒潮大蛇行などによる高水温や魚類の食害の影響により、カジメの藻場が衰退し、それを餌とするアワビなど貝類の漁獲量も激減しました。このような海の状況でも生育し、藻場を形成する可能性がある海藻としてアントクメに着目し、本種の特性を調べましたので、その内容を紹介します。



伊豆地域で生育するアントクメ

④国産サーモンをつくりマス　～海面養殖に適したニジマスの育種～

富士養鱒場　主任研究員　高田伸二

海面で養殖されたニジマスは生食用のサーモンとして人気ですが、大部分は輸入されています。サーモン人気を受けて、国内の海面養殖の取組も増えていますが、その多くは輸入した卵から育てています。そこで、国産の卵から育てたサーモンを増やすために、海面養殖に適したニジマスの作出を目指して育種に取り組んでいます。



海水飼育したニジマス

⑤「獲る」から「守り、育てる」へ　～浜名湖アサリ復活への挑戦～

浜名湖分場　主査　霜村胤日人

浜名湖でアサリが水揚げされなくなってから２年以上になります。この間、水産・海洋技術研究所浜名湖分場では漁業者と協力しながらアサリの保護活動や、「アサリ養殖」という新たな産業の創出に挑戦してきました。今回これらの取組をご紹介します。



アサリを外敵から守るための網を設置

⑥カツオの内臓を有効活用！　～漁業用代替餌料の開発～

開発加工科　研究員　朝倉啓輔

水産加工品の製造過程では原魚の内臓等の残さが大量に排出されており、主に飼肥料として使用されています。これらの残さを漁業等で有効活用することを目的に集魚効果のあるエキスを開発し、その効果の検証を行いましたので紹介します。



サバを用いた集魚効果検証試験の様子